

令和4年9月1日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和4年度病害虫発生予報第6号について

今後発生が予想される大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や、防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 9月上旬～9月下旬

2 予報内容

(1)大豆

葉焼病の発生は**多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底し、抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2)果樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ナシ黒斑病および**リンゴ斑点落葉病**の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底し、耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。また、発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

(3)野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**多**と予想される。予防防除を徹底する。

ネギハモグリバエの発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底し、抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウおよび**シロイチモジヨトウ**の発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底し、抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

また、周辺作物への飛散防止を徹底する。